



素材を生かす澄んだ赤橙色
深いコクとうまみ
華やかな香り

もう日本から持ち込まなくても大丈夫！
リベルダージ地区やお近くの日本食材店で
お買い求めいただけます。

あのだ「キッコマン本醸造しょうゆ」が
しよよブラジル・サンパウロで
現地製造・販売されます。

お待ちせいたしました！

主原料



日本での歴史ある製法にこだわり、伝統的なしょうゆの原料である「大豆」と「小麦」を使用。

現地製造



日本からの技術者の
厳しい管理のもと、
サンパウロ・
カンピーナス工場
でしょうゆを製造し、
ご提供します。

お問い合わせ KIKKOMAN DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE ALIMENTOS E BEBIDAS LTDA.
TEL:011-3283-0733 E-MAIL:contato@kikkoman.com.br

Facebook Instagram @KikkomanBrasil

ALIMENTOS

BEBIDAS



目次

あのだこの町
サントス [星 淳子] 3

ブラジル・ナウ
農業を切り口に考察するボルソナー口政権の3年間
[林 瑞穂] 5

【特集】 コロナ禍のスタートアップ躍進
デジタル化が生んだ好循環
大国のポテンシャル開花 [中山 充] 6

【特集】 コロナ禍のスタートアップ躍進
ブラジルコスト克服の試み
規制業種に新風、政府も動く [松平史寿子] 8

【特集】 コロナ禍のスタートアップ躍進
植物由来代替肉のスタートアップ事例
[編集部] 10

日本の中のブラジル人支援（医療通訳支援）
[池 聡子] 11

ブラジル現地報告
レオン・カコフ賞を受賞した女優エレナ・イネス
[布施直佐] 12

連載・日系企業シリーズ
三菱商事のブラジル事業 [篠崎幸男] 13

連載・ビジネス法務の肝
ブラジルにおける農地取得規制
[柏 健吾] 14

連載・税務の勘どころ
2022年度における直近の税制動向
[清水正男ヴァウテル/三上智大/天野義仁] 15

エッセイ
ブラジル北東部音楽フォホーの歌の世界
[服部章子] 16

ウーマン・アイ
Casa Caiada と Arraiolos [小林綾子] 17

ジャーナリストの旅路
不正引き出しとカード偽造 [中村聡也] 17

連載・文化評論
ブラジル発多国籍企業の来し方行く末
松野哲朗著『ブラジル企業 多国籍化の構図』を読む
[岸和田仁] 18

キャンパス・コラム
多様なヤシ類とアグロフォレストリーを研究して
[牛丸武文] 19

新刊書紹介 20

連載・ブラジルあれこれ
Café Lamas (2) 20

協会からのお知らせ 22



写真=永武ひかる
「表紙のひとこと」
「見渡す限りの乾いた大地、セラード地帯。意外にも緑があり、その小道を辿ると、眩いエメラルドグリーンに行き着いた。ほとばしる清流を楽しむ人も。ここトカンチンス州立公園ジャラボンには、岩山や砂丘に滝、泉の湧く静謐なスポットもある」
永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」（備成社）等。
www.hikarunphoto.com

あのだこの町

サントス Santos

南米大陸で最大級の港を有し、サンパウロ州沿岸部の最大都市でもある「サントス市」は、サンパウロ市から車で東へ約1時間のところにある。長崎市と下関市の姉妹都市にもなっているサントス市は、2015年のブラジル国内調査において「ブラジルで一番住みやすい町」に選ばれている。7キロにわたる長い海外線には



「Jardins da Orla da Praia(海辺ビーチ庭園)」と呼ばれる庭園があり「世界最大の庭園」としてギネス登録されている。この庭園には、日本移民上陸記念碑があるが、夢と希望を胸にブラジルを目指した日本人が、124年前に到着した地が、サントスであったことに由来する。また、この庭園の先には日本移民100周年記念オブジェとして作られた芸術家「TOMIE OTAKE」のモニュメントも設置されている。

このように日本人移民にとって特別な街サントスには「サントス日本人会」があり、日本の伝統行事や日本語を後世に伝える活動が行われている。また4年に1度、サントスに海上自衛隊練習艦隊が入港する際は、盛大な歓迎行事が行われ、威風堂々と入港してくる船の姿に、多くの者が感無量の表情を浮かべる。また2008年には、現在の天皇陛下が皇太子として「サントス日本人会」をご訪問されている。当時の日本人会会長であった私の父は言うに及ばず、多くの日本人移民が、今でもこのご訪問を誇りに思っている。このような海岸都市であるサントスでは、サンパウロでは手に入り



にくい新鮮な魚介類が容易に手に入る。今から40年ほど前のブラジルでは「刺身」は「peixe cru」(生魚)と表現され、そのまま食べることに違和感を覚えるブラジル人も多かった。当時、友達に「peixe cru」大好きと話したら「é louca?」(狂ってる?)と言われていたこともあったが、今では「sashimi」、「sushi」と言えば、皆から笑顔が溢れ出るようになっていく。

こんなサントスの街を一望したい方には、サントス市セントロ地区にある小山「モンチセハッチ」がお勧めだ。所狭しと立ち並ぶビル群の先に、海が広がっている光景が楽しめる。一方で、サントス自慢の海全体を一望するには、サントスの隣町「サンヴィセンチ」にある小山「イリヤボルシャ」がお勧めだ。その山で潮風と冷えたビールを楽しみながら海を眺めると、なんとも言いえない幸せを感じる。そして山から市街地へ戻り、長崎から寄贈された路面電車がサントス市民の足として活躍する姿を目にし、また日本を思い出す。それがサントスという街だ。



▲長崎から寄贈された路面電車

▲当時の皇太子とサントス日本人会

星 淳子 (H&A コンサルティング代表)